

## 平成 26 年 3 月 13 日参議院文教科学委員会議事録

○松沢成文君 みんなの党の松沢成文でございます。大臣、お疲れさまです。

私は、大臣が文科大臣になって様々な活動あるいは様々な改革提案をされている、大変高く評価させていただいております。ちょっと褒め殺しになるかもしれませんが、日本国はこういう文科大臣を頂いて本当によかったなというふうに思っているんです。

大臣が様々教育改革の提案をされている中で、私自身一番うれしかったのは、つい数か月前に大臣が高校日本史を必修化していきたいと、その検討を始めるんだというふうに宣言していただいた。本当にうれしかったです。といいますのは、私自身もずっとこの問題取り組んできておまして、もう七、八年前から実は文科省にも何度も、当時神奈川県知事だったんですが、通ってきて、当時の大臣や副大臣に次の学習指導要領改訂の際には是非とも高校日本史は必修化すべきだと訴えてきたんですが、なかなか進んでこなかったんですね。

なぜ高校生に日本史をしっかり教えるべきなのか、それも必修として教えるべきなのか。私は、やはり日本の歴史、伝統、文化をしっかりと習得した日本人こそが本当の意味での国際人になれると思うんです。英語がしゃべれるから国際人じゃなくて、やはり自国の歴史、伝統、文化もしっかりと説明ができる。やっぱり自国の歴史、伝統、文化を学んでいけば、相手国の歴史、伝統、文化も尊重するような、そういう包容力のある人間に育つわけですね。ところが、残念ながら、日本の今の高校生、歴史、特に日本史を真剣に学んでいる子が少ないんですね。

私、知事のととき驚いたんですけれども、ある神奈川県の高校で日本と中国が戦争をしたことを知らないという高校生が半分以上いたという高校があるんです。ほとんど近現代史勉強していません。それはまあ高校は世界史必修で、日本史は地理と日本史の選択科目になってしまった。中学では日本史はやっていますけれども、全員がしっかりと近現代までやっているわけじゃないんですね。高校に来ると半分の生徒は地理を取っちゃうわけなんです。そういうことで、近現代史をほとんど学ばずに大人になってしまう、そういう若い子が多いと。これは私は日本の国益の問題だというふうに思っているんです。

文科省に何度当時尋ねてもなかなか難しいという答えだったので、それでは神奈川から先行でやらせていただきますということで、神奈川県教育委員会に検討をお願いして、様々な議論があったんです。最初に来る反論は、国がやっていないのに県だけでできるのかという、こういう地方分権に逆行するような、勝手にやるなみたいな反論からありましたし、それから、親御さんたちからは、知事、余計なことをするな、うちの娘は受験に忙しいんだ、国語と算数と英語以外時間を割くのは困るんだ、歴史なんか必修化されたら困ると、こんな声まであったんですね。でも、教育委員の皆さんが、先生方あるいは教職員の皆さん、親御

さんたちとも様々話しを進めて、私も何度もタウンミーティングに出ましたけれども、神奈川県でやろうということによってようやく実現ができたんです。それは、たしか四年ぐらい前だったと思います。議論に二年以上掛けました。

神奈川県では副読本も作って、実は今の日本史のA、Bとありますね、学習指導要領に。Aが近現代中心、Bが通史ですか。それと合わせるように神奈川の郷土史と神奈川の近現代史。神奈川県は、ペリーの来港、横浜開港以来、日本の近代化の、あるいは文明開化の中心地でしたので、神奈川の近現代史というのも相当詰まっているんで、そういう副読本を作って、この四つの中から必ず全ての高校生がきちっと選択して必修として学びなさいという方針を出させていただきました。

まだ四年目でありますから、どこまで神奈川の若い人たちが歴史、伝統、文化を体得した素晴らしい青年に育っているかは、まだもう少し時間が掛かると思いますが、これを受けて東京都も、神奈川でやっているなら東京もやろうということで、今神奈川と東京で、日本ではこの二つだけなんですけれども、高校日本史が必修となったと。

私は、実はこれ全ての都道府県でやってほしいということで、全国知事会でも訴えました。その中から、幾つかの知事さんから、神奈川でよくやったねと、うちもやってみたいということで、だんだん広がりつつあったところ、文科大臣がやはりこれは国全体でしっかりとこの改革をしようということで、高らかに方針を示していただいた。私は本当にうれしかったです。

そこで、まず最初に伺いますが、文科大臣は、大臣としてあるいは政治家として、歴史教育の重要性というのをどう認識されているか。そしてまた、高校日本史必修化の方針を打ち出したわけでありましてけれども、今後これを具体的に、恐らく中央教育審議会等々でも議論していただくんだと思いますが、どんな形で、どんなスケジュールで進めていくのか、お聞かせいただきたいと思います。

○国務大臣（下村博文君） 松沢当時知事の神奈川県における日本史必修というのは、大変私は時代を先取りした先見の明があった素晴らしい取組だというふうに思います。しかし、我々が取り組むとなると、何か安倍政権は右傾化だのような一部報道があったりするんですが、日本史必修がなぜ右傾化なのかと、ああいうことを言われること自体が間違った発想ではないかというふうに思います。

それは、いろんな留学生に会って彼らの話を聞くと、今おっしゃったように、英語は話すようになったと。しかし、外国人と話して日本のことが語れないと。日本の歴史がどうだったのか、文化、歴史がどうだったのか、そういうことがきちっと話せない海外では評価してくれないと。英語だけ話せても、それはある意味では共通語としてのツールとして当然の

ことであって、それが別に学生としてあるいは国際社会で働くグローバル人材として必要ではあるけれども十分ではないと。改めて海外に行って、いかに自分が日本のことを学んでいないかということで痛切に感じ、またそれが、物すごく自分にとっては自信がない、それから、積極的にビジネスにおいてもそれから教育においてもいろんな人と話せない、そういう要因にもなっているので、是非、将来困ることがないように、海外に行ったときですね、日本の伝統、文化、歴史をきちっと教えるという環境をつくってほしいということはほとんど全ての留学生に言われます。

真のグローバル人材、アイデンティティーを持った国際人材になるためには、やっぱり日本人としての伝統、文化、歴史を育むような根っこの部分をしっかり教えて、そして世界各国どこへ行っても活躍をするという意味では非常に重要なことだというふうに思いますし、それと右傾化というのは全く関係ない話だというふうに思うんですね。ですから、もっと日本の伝統、文化、歴史をしっかりと学んで、そして世界どこへ行っても日本はこうだということが、それは誇らしい部分がたくさんあるわけですから、是非子供たちにそういう基盤をつくっていくようなことをしていきたいというふうに思います。

そのために高等学校の教育課程で日本史をどのように扱うか。これは次期学習指導要領改訂の大きな検討課題として位置付けました。文科省としては、今年のしかるべき時期に中央教育審議会に諮問をしたいと考えております。教育課程全体の在り方の中で、高校における日本史の扱いなど地理歴史の見直しについても検討を進めてまいりたいと思います。

○松沢成文君 中教審に諮問をしてくださるということで、ぐっと前進すると思います。ただ、私は、ちょっと、神奈川で高校日本史必修化を取り組んできた中で、一つ反省点というか、ああ、こういうやり方があったのかなと思っている部分があるんですが、それは実は、世界史は高校で必修だと、日本史も必修にしてくれということで、私は日本史対世界史という、こういう枠組みで考えちゃったんですが、ただ、やはり歴史を勉強するには日本史と世界史がかなり密接につながっているのはこれ当然ですよ。

特にペリー来航の日本開国以降は、列強とどう対峙していくのか、その過程で日清戦争、日露戦争もあって、坂の上の雲を目指し頑張ってきた、あるいは大恐慌も来た、関東大震災もあった、そして大正デモクラシーもあった、でもその後には軍国主義になってきてしまっただけであの大戦に突入して終戦を迎えた。これは日本史、世界史、分けられないんですね。もう日本史の中に世界史があるし、世界史の中に日本史があった。つまり、近現代史という、大変私は一つの重みを持った部分があるんだと思うんです。

そこで、日本史を必修、世界史をどうするかと、こういう議論でなくて、私は、今回、中教審に諮問をしていただけたら、近現代史を一つのカテゴリーにして、その中で日本

がどういう道を国として、国民として歩んできたのか。その中で、もう国際政治の中でもまれ続けたわけですから、世界史の中で日本がどう動いてきたのか、これを全体として教えるという近現代史、こういう形で高校生に学んでもらえないのかなど。

高校生にとっても、近現代史というのは、おじいちゃん、ひいおじいちゃん、もう三代、四代前の近い歴史で、やっぱり古代や中世とは違った親近感もあるし、そしてまた中国や韓国との今後の関係を考えても、やっぱり近現代史をしっかりと学んでおくということが、私は、摩擦もあるかもしれませんが、友好につながると思うんですね。

そういう意味で、中教審に諮問するとき、実は日本学術会議なんかもそういう視点が必要だという提言も出されていますよね。近現代史というカテゴリーで科目をつくっていただくようなことも是非とも検討していただきたいというふうに思うんですが、大臣、いかがでしょうか。

○国務大臣(下村博文君) それは大変にすばらしい提案だというふうに思います。先ほど、日本と中国が戦争していたのかということを知らない学生がいるという話がありましたが、日本とアメリカが戦争したということ自体も知らない高校生が今たくさんいるということはもう考えられないことでありまして、それだけ近現代史についての、ある意味では当たり前のことさえ知らないという中での位置付けは大変に重要だというふうに思います。

現行の学習指導要領改訂について検討した中央教育審議会の答申においては、高等学校の地理歴史科における必修科目の在り方として、今後、地理歴史に関する総合的な科目の設置について検討する必要がある旨述べられております。検討に当たっては、御指摘の日本史と世界史を併せた近現代史を必修化することも一つの知見であると考えられ、現在、文科省の研究開発学校において、新たに近現代史に関する科目を設置する試みなどが行われております。

また、これは松沢知事のときに進められたことだというふうに思いますし、先ほどもおっしゃっていましたが、神奈川県教育委員会では、独自の科目として、近現代と神奈川、それから郷土史かながわを設定するなどの取組も行われているということをお聞きしております。

今後、高等学校の地理歴史の中にこの日本史、世界史もあるわけですが、この見直しに当たって、これらの取組の成果も含めながら、問題は、重要なことだと思いますが、ただ、その近現代史という教科をどういう学者がどう書き込められるのかどうかと、書けるのかどうかという、学習指導要領の問題と、それから、それに堪え得る学者がどれぐらいいるのかどうかということもあるかというふうに思います。しかし、これは必要な分野だというふうに思いますし、前向きに検討していきたいと思っております。

○松沢成文君 ありがとうございます。

次に、ちょっと具体的に、大臣は所信表明の中でも、文化芸術立国の実現を目指すと、高らかにうたい上げておりました。東京オリンピックも招致が決まって、もう準備に入っているわけですがけれども、これから国内外の多くの皆さんが東京首都圏に来ていただけると思います。

大臣も東京出身でありますから東京のことは私なんかよりももっともよく知っていると思いますが、私は、東京という日本の首都、もう世界の最先端国際経済都市、素晴らしい都市だと思うんですが、森ビルの前の社長でこの前お亡くなりになりましたけれども、森稔社長が素晴らしいことを言っているんですね。経済だけで文化のない都市は魅力がないと。彼が言うには、東京は経済的にはすごい都市だと、でもやっぱり文化の薫りが何か足りないから都市としてまだまだ魅力がいまいちだと。したがって、国際観光客の数は、パリが年間八千万人来るのに東京は八百万、まあ去年一千万超えたと喜んでいますが、やっぱりパリやロンドンやニューヨークや北京に比べると、ぐっと落ちるんですね。

そこで、実は私も東京に何か文化の薫りをつくれないうか、文化の創造ができないかと思っずずっと考えていたんですが、実は、江戸城、東京の真ん中に、今は皇居と呼ばれていますけれども、江戸城がある。ここは太田道灌、あるいは徳川家康が転封されて入ってきて、素晴らしいお城を築いたわけなんです。

この江戸城は、近代城郭文化の最高傑作と言われた素晴らしい天守閣を持っていたんですね。実は、大阪城や名古屋城の天守閣よりも、もう一・五倍、二倍ぐらい大きかったんです。明暦の大火で全焼してしまって、実はそれ以降建てられていないわけなんですけれども、ただ、大変有り難いことに、三代目の寛永度天守閣の見取図、設計図が残っています。これに忠実に復元ができれば、これは大変な文化財としての価値も持ってくるわけなんです。

私は、江戸城の天守閣を復元するというプロジェクトによって様々な日本再生に向けての効果があると思うんです。

一つは、歴史、伝統、文化の復興ということであります。日本の素晴らしい城郭文化。

二つ目には、こういう神社、仏閣、お城なんかをもう造れる人がいなくなっているんですね。宮大工さん、石積み職人、瓦職人、あるいはしっくい土塀を塗っていきますので左官職人。こういう人たちが大きな仕事がないもので、お宮の修繕ぐらいなんで、本格的な城郭建築なんかをもうできるような能力がだんだんと薄れてきちゃった。みんな仕事がないから辞めていっちゃっているんです。やっぱり日本の伝統的な木造建築、伝統技術のたくみの技を継承させていくためにも、こういう大きな江戸城天守閣復元のようなプロジェクトが必要だということなんです。

それで、三点目は、観光振興です。オリンピックで多くのお客さんも来るでしょう。もちろんオリンピックまでには間に合わないかもしれませんが、東京の観光振興の核となると思います。東京駅の駅舎がれんが造りで復元されました。あれは明治の鉄道ができたときの東京駅の駅舎を復元したんですね。今行くと、みんな写真撮りに来ています。東京のステーションホテル、いつもいっぱいです。ああいう文化的な建造物を復元できると、それだけで観光資源として物すごく求心力を持つんですね。

私は、東京駅そして江戸城天守閣、さらには日本橋の首都高を取っ払って、日本橋の魚河岸を再現する、そうすれば、東京の中心部に東京駅、江戸城、日本橋と、江戸、明治期の東京の歴史、伝統、文化を象徴するようなすばらしい観光スポットができ上がるわけです。江戸は昔、水路の町でしたから、これを水路でつなぐんですね。今、シンガポールなんかは水陸両用バスというのがすごいはやっていて、あるときは上陸して、あるときは進水する。お台場から隅田川上がってきて、日本橋川上がってきて、江戸城のお堀に入って、進水したり上陸を繰り返して、まるでテーマパークにいるような、もう本当にわくわくどきどき、楽しい東京観光ができるわけですね。ですから、観光振興にも物すごく私は大きな影響があると思うんです。

こういう江戸城天守閣再建に向けて、実はNPO法人江戸城再建を目指す会というのがもう十年近く活動してまして、私も四年ぐらい前に仲間に、三年前ですか、入れていただいて今活動しているんですね。

恐らく大臣も御存じかもしれませんが、大臣は、この江戸城天守閣を再建、復元して、日本の再生のために文化の新しい核にして、観光の核にするという、こういう動き、プロジェクト、東京選出の政治家でもあられます大臣はいかがお考えでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） 私も東京選出の衆議院議員でありますので、この特別史跡江戸城跡の天守台における天守閣の復元について聞いておりますし、実際に現地で、ここに天守閣ができたならどういうイメージになるかということで見に行ったこともありますし、今の御指摘について私も同感する部分がたくさんございます。

ただ、この答弁のレクで文化庁が私のところに来まして、その答弁をそのままちょっと読み上げさせていただきますと、天守閣については、一般的に御指摘のような効果があると考えます。一方、江戸城の天守閣の復元には課題があり、まずは天守台の所有者である宮内庁の同意が前提と考えるが、宮内庁は慎重と聞いている。次に、江戸城の天守閣は、明暦三年、一六五七年の明暦の大火により焼失した後、天守台の拡張が行われたが、江戸幕府の政策として再建されなかったという歴史があることから、文化財保護法に基づく現状変更の許可を行う場合には、現在の天守台は実在した天守閣のための台より大きく、復元する場合は、い

つの天守閣を復元し、歴史的事実との関係をどのように整理するか。天守閣が再建されなかったことをどのように考えるか。復元した場合、基礎の設置など、遺構を損傷せずに建築できるかという課題があると認識しているというのが来まして、この中で、天守閣が再建されなかったことをどのように考えるかというのはどういう意味なのかと聞きましたら、これは江戸幕府のとき、当然ですけど、当時の江戸幕府は、ほかの城に対しては天守閣を造らないようにさせたわけですね。その文化庁の私に対する説明では、それは、平和の象徴として二度と戦争させないと、そのために江戸城も自ら天守閣を造らないというのは平和の象徴の意味なんだというふうに言われまして、いや、私は、本当に江戸時代にそんな思想があったのかと、後々の、後世の学者が後付けしたんじゃないかということで、よく調べろと言って、帰ったまま今のこの時間を迎えているんですが。

そういうふうに、いろんな要素があるということは事実でございますので、トータル的に考える中でどういう形が望ましいか。しかし、観光としてより魅力的な東京をつくっていくという意味での一つのツールとしてはあり得る話ではないかと私は思っておりますが、コンセプトはしっかりと考えていく必要があると思います。

○松沢成文君 この江戸城天守閣復元に向けて、私は二つの方針を示したいなと思っているんです。

一つは、もう絶対鉄筋コンクリートのようなものは駄目だと、見取図が残っているわけですから、もう木造で完全復元すると。そこで価値が初めて出てきて、将来的には世界遺産になっていく可能性もあるんですね、本物の復元ですから。

それともう一つは、税金を使わないということなんです。もう賛同するみんなが民間資金を集めて、企業や個人から寄附を集めて、それで作るということなんです。つまり、過去にすばらしい文化があった、それを今を生きる我々が復元して将来の世代の贈物にしよう。つまり、過去、現在、未来のきずなをつなぐようなプロジェクトにしていくとその価値も大きくなるんじゃないかなと思っていますね。

それで、ちょっと手前みそで失礼なんですけど、私、今度「甦れ！江戸城天守閣」という本を書きました。その中に、この重要性だとかどうやったら復元できるのか、いろいろ提案をさせていただいております、今結構アマゾンでも売れております。今日は、大臣、寝る前にもう本当に眠り薬に使っていただければと思って私の提案持ってきたので、是非とも御一読をいただければというふうに思います。

確かに、霞が関の関係する省庁に聞くと、もう法律準拠主義、前例踏襲主義ですから、そんなことやったことありません、みんな反対のための理由を幾つも並べてくるんですね。ただ、やっぱりこの国にとって本当に必要なものであれば、こういう理由があるからできない

というよりも、じゃ、こういう目標を持ってその中でどういうやり方があるんだというのを探して実行に移すのが政治家だと思っていまして、私は、是非とも東京出身の下村大臣にこういう大きな夢を国民の皆さんに訴えていただいてその先頭に立っていただきたいというふうに思っておりますので、今後の是非とも御検討をお願いして、質問を終わります。

どうもありがとうございました。